

AGU NEWS

青山学院大学

Vol.

11

AGUニュース第11号
[2002年3~4月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)

URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



正門:門柱(青山キャンパス)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

卒業生
特集

青学で培った4年間

卒業生からのメッセージ

- ・日本興亜損害保険株式会社 松澤 建 氏
- ・全国朝日放送株式会社〈テレビ朝日〉 岡田洋子 さん

新卒業生メッセージ

TOPICS

21世紀の「全学共通教育」構想について聞く
山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

報告・お知らせ

法学部への転学部制度導入について
フェスティバル in さがみはら開催報告
青山学院大学教育ローン
誌上公開講座 Vol.11
—福祉とロボット—

INFORMATION

卒業後の連絡先一覧
2002年度公開講座
クラブ・サークル インフォメーション

青学で培った4年間

いよいよ、卒業シーズン。
 この特集では今春の学部卒業生および大学院修了生に
 青山学院大学での学生生活を振り返ってもらい、
 新たな旅立ちに向けた決意を語ってもらいます。
 さらに、現在、社会の第一線で
 華々しく活躍する本学卒業生から、
 後輩に向けた温かいメッセージをいただきました。
 長いようで、あっという間の4年間……。
 その過ごし方は、学生の数だけあります。

自分の「苦手意識」を
 克服することが
 大学生活のテーマでした。



高校時代は、数学や理科は得意でしたが、苦手分野があることが悔しくて、敢えて国際政治経済学部を選択。しかしグローバルに活躍する人材の育成を目指すこの学部では、自分の英語力にずっとコンプレックスを抱いており、TOEICで高得点をとつても、苦手意識は消えませんでした。

そこで思い切って1年休学し、イギリスへ留学。ウォーリック大学でファイナンスについて学んでいるうちに、専門分野への興味が深まり、国際マネジメント研究科への進学を決めました。そのうえ、飛び級制度のおかげで

岡野 美奈さん
 国際政治経済学部 国際経営学科 2002年卒業
 本学専門大学院 国際マネジメント研究科進学



川崎 泰寛君
 経済学部 経済学科 2002年卒業
 キヤノン株式会社社内定

僕は就職活動自体をひとつの社会勉強と考え、幅広い企業にアプローチしました。その中でも本命のひとつとして考えていた企業に採用が決まり、今でも信じられない気持ちです。大学時代は広告研究会に所属。毎年夏、クラブ活動の一環として、千葉県富浦海岸で「海の家」を運営しました。大学生活の一番の思い出といえば、ここで笑いあり、涙ありの日々を送ったことです。僕は「人間、恥をかかなければ大きくなれない」という精神で、4年間を過ごしてきました。確かに恥もたくさんかきましたが、それ以上に得るものが大きかったと思います。社会人になっても常に「攻め」の気持ちで何事にも率先して取り組み、その中に楽しさや、やりがいを見つけられるようなチャレンジャーでありたいと思っています。

後輩のみなさん、大学4年間には、自分の自由になる時間がたっぷりあります。でも、油断しているとあっという間に過ぎてしまいます。卒業時に後悔しないよう、一日一日を大切に過ごしてください。



社会人になつても
 失敗をおそれない
 チャレンジャーでありたい。



人生には良い時もあれば、悪い時もある。
 でも、苦しい時こそ大きなチャンスです。



松澤 建さん
 日本興亜損害保険株式会社
 代表取締役社長
 経済学部商学科 (当時)
 1960年卒業

日本興亜海上保険(株)でクアラルンプール初代駐在員、首都圏営業本部長、専務取締役等を歴任。1998年社長に。2001年4月、興亜火災海上保険(株)との合併を実現させ、業界初の盗難防止装置設置車に対する自動車保険の割引など、積極的に新サービスを打ち出している。

方々の教えを受けながら、私もがむしゃらになつて働きました。いつの時代も、向上心なくして人生の充実はありません。後輩のみなさんが、自分の人生を賭けるに足る職業を見つけてくれることを願ってやみません。

青山学院大学出身者の美点は、人柄の良さ、真面目さにあります。これらは社会人として大切なことであり、どの企業でも歓迎される特質でしょう。ただし、これからの時代は、単に命じられた仕事を無難にこなすだけでは不十分。真面目さ、ひたむきさに加え、攻めの姿勢が重要になります。社外に人脈を広げたり、さまざまなセミナーに参加したり……常に自分を磨く努力を怠れず、いいですね。現在の就職難を嘆く後輩のみなさんも多いかもしれませんが、「良い時もある」「悪い時もある」……それが世の中であり、人生です。私などむしろ苦しい時こそビジネスチャンスと思ひ、もともと元気が出てきたのも、そうした考え方で仕事を切つて企業合併を成功させることができたのも、そうした考え方で仕事に臨んできたからだと思います。不景気の時代に直面する若いみなさんも、それをチャンスととらえてください。敵しさのなかに生きるからこそ、なによりの人生勉強なのです。私の新人時代の上司だった方々には、日本と日本人の再生のために働こうという崇高な志がありました。まだ敗戦の傷跡が残っていた時代です。そしてそうした尊敬できる先輩

青学で培った 4年間

社会人になってから、フランス語とは縁がなかったのですが、2年前、ルイ・ヴィトンやグッチ、ジバンシー、ディオールなど有名老舗ブランドを抱える世界最大のブランド企業LVMH（モエ・ヘネシー・ルイ・ヴィトン）会長・ベルナール・アルノー氏への現地独占インタビューを行うことになりました。もちろん通訳を介してだったのですが、アルノー氏の話すフランス語を聞いていると、次第にその意味が自分でも分かってきたんです。大学で学んだフランス語が記憶にしっかりと残っていたんですね。インタビュー自体も順調で、ブランドの買収・再生から世界戦略まで、たくさんの興味深いお話を伺うことができ、非常に思い出に残る仕事になりました。

どんな仕事にも共通すると思いますが、社会人として欠かせないのは、やはり体力と好奇心です。そしてもうひとつ、いい友人の存在……。仕事で挫けそうになると、今でも私は大学時代の友人と会う

ことがあります。そうすると「また頑張ろう」と思えるんです。一生付き合える友人は、決してお金では買えない「宝物」。後輩のみなさんも、ぜひ、学生時代にいい友人をたくさんつくってください。今の私の好奇心？ 報道の仕事をしていると、忙しさのなかでついつい「夢」を忘れてしまいがちなものですが、いつか「人間」をテーマとしたドキュメンタリーをじっくりと制作してみたいと思っています。

岡田 洋子さん
全国朝日放送株式会社（テレビ朝日 編成局アナウンス部）
文学部フランス文学科 1992年卒業

1992年4月の入社以来、一貫して報道畑を歩み、現在、「ザ・スクープ」「ANNニュースフレッシュ」「ANNニュース&スポーツ」「スーパーJチャンネル」などを担当。

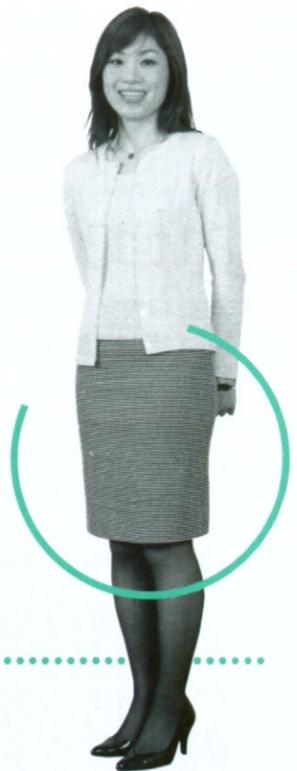
大学時代の友人は お金では買えない「宝物」です



宮下 智江さん
法学部法学科 2002年卒業
警視庁警察官採用試験合格

「誰かのために」働きたいから、 警察官の道を選びました。

子どもの頃から単に自分の生活のために働くのではなく、「人のためになる」仕事をしたいと思っていた私。高校時代は理系ということもあり、最初に考えたのは医者でした。ところがある日、警察庁に入った知り合いの方から仕事のお話をうかがい、それをきっかけに「警察官になりたい」という気持ちが強くなっていきました。高校3年生の時です。そこで文系志願に切り替え、法学部に入学。刑法のゼミに所属し、3年次は「少年法」、4年次は「犯罪被害者保護制度」について研究しました。一般企業などへの就職活動はまったく行いませんでした。友人たちが次々に内定をもらっているなか、不安もありましたが、私には警察官以外の進路は考えられなかったからです。筆記試験のためにダブルスクールに通ったり、教員試験を受験する友人と励まし合いながら勉強し、また、体力試験のためにジムや水泳で身体を鍛えました。……将来は刑事として犯罪捜査に関わることが目標ですが、いつまでも初心を忘れずに、前向きに職務に励んでいきたいと思っています。



わが大学生活に、 悔いなし!

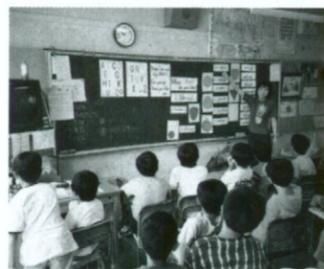
学部時代は、私たちの生活に関係の深い応用分野の研究をしたいと考え、4年次より理工学部化学科の重里有三先生の研究室に所属。透明導電膜の研究に取り組み、その後大学院でも研究を継続しました。就職活動に際しては、研究室選びの時と同様に「生活の中で身近な製品」をつくっているメーカーへの就職を希望。電子機器、半導体、光学機器から文具メーカーまで、さまざまな企業にアプローチしましたが、最終的に内定をいただいたのがソニーでした。昨年2月、ソニーは次世代のデ



嶋田 祐介君
本学大学院
理工学研究科化学専攻 2002年修了
ソニー株式会社内定



イスブレイと言われている「有機ELディスプレイ」の試作品を発表しており、自分としても意中の企業のひとつだったので、この結果に満足しています。ソニーは、ユニークな製品を数多く世に出しているため、将来は製品企画の仕事をしてみたいと思っています。研究や課外活動（フィールドアスレター）に熱中した大学生活に、まったく悔いはありません。ただ、大学生活の思い出が詰まった厚木キャンパスと世田谷キャンパスが、あと一年で無くなってしまふのは少々寂しいですね。



ゼミの先輩や仲間と勉強会を行ったり、山形県で行われた子どもたちのための体験教室にボランティアで参加したり、オーストラリアの小・中学校で日本語の授業を体験したり……小学校教員を目指してがんばった4年間は、あっという間に過ぎていきました。私の教育実習の舞台は、母校でもある小学校。主に「算数」の授業を担当し、子どもたちとの交流のなか、教員になりたいという意識がますます高まりました。中学校英語教諭の免許状取得も希望していたことから、実習期間中、実習校の先生方のはからいで特別に「英語」の授業を行わせていただきました。いよいよ実習校を去る日に、子どもたちから「先生、もっと英語の勉強がやりたい」といわれたことはいつまでも忘れないでしょう。私が、念願となって小学校教員になれるのは、自分ひとりの努力だけではなく、先生やゼミの仲間、そして教育実習で出会った大勢の子どもたちのおかげだと思っています。大学生活で得たいちばんの財産は、そうした素晴らしい人々との出会いだったと、今つくづく感じています。

中村 有希さん
文学部教育学科 2002年卒業
神奈川県教員採用試験
（小学校教諭）合格



素晴らしい人々と出会えたから夢がかなった

21世紀の「全学共通教育」構想について聞く

現在、相模原キャンパスの建設と並行して、「共通教育のあり方検討委員会」を中心に、他大学にはないユニークな「全学共通教育」の構想が検討されています。そこで、委員長として活躍する西澤副学長に、新しい「全学共通教育」の考え方とカリキュラムの構想についてお話をうかがいました。

新キャンパス開学とともに 新しい「全学共通教育」がスタート



副学長 西澤 宗英
(学務・学生担当)

2003年4月、相模原キャンパスの開学とともに、21世紀の青山学院大学が本格的に始動します。

それは決して新キャンパスというハードウェア面だけの改革ではありません。教育というソフトウェアの部分も含めた大規模なリニューアルであり、そのひとつの柱といえるのが「全学共通科目等」の改革です。本学では、学長の諮問機関で

ある「共通教育のあり方検討委員会」を設け、2001年より、ワーキンググループ(作業部会)を含め、ほぼ毎週、学内でミーティングを行っており、各学部との協調のもと、精力的に改革の具体化作業を進めています。

2002年夏頃までには、委員会として、設置科目を含めた新しい全学共通教育の具体案を提示できるでしょう。

「全学共通教育」の意義を改めて問い直す

—青山スタンダードへ—

「全学共通教育」は、各学部・学科の固有科目を学ぶ上での土台となる教養を形成するためのものです。これは、例えば専門学校とは異なる大学教育を特徴づける要素となります。同時に、社会に対して大学としてどのような学生を送り出すか、いわば卒業生の「カラー」を打ち出していくために大変重要なファクターでもあります。委員会ではそのような見地から、青山学院大学ならではの「全学共通教育」のコンセプトが必要であると考え、それを「青山スタンダード」と名づけました。すなわち「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかにかかわらず、一定の水準の技術・能力と一定の範囲の知識・教養を持っていると社会的に評価される学生を輩出すること」、つまり、本学を卒業したすべての学生の知的クオリティのミニマム・スタンダードを社会に対して保証しようというものです。

新しい「全学共通教育」のアウトラインについて

新しい「全学共通教育」は、「スタンダード科目群」および「テーマ別スタンダード科目群」の2つの科目群で構成される予定です。

「スタンダード科目群」は、「技能」系科目群と、「教養」系科目群の2系統を考えています。

まず、「技能」系科目群には、身体能力(スポーツ、舞踊等)、言語能力(外国語等)、数量的能力(情報処理等)に関わる科目が含まれ、これらは学習の到達度を数量的に計量することが可能な

分野でもあります。その中で英語学習は、「英語の青山」の定評を改めて社会に向けてアピールできるようになるための役割を果たしていくことになるでしょう。

次に「教養」系科目群では、青山学院大学生としての自己や学院の歴史、およびキリスト教に基づく教育を理解するために「青山学院(大学)史」にふれることができるような科目を設けたり、さらに、人間、社会、自然、歴史の各分野を異なる領域の複数の教員によって学際的にレクチャーする総合科目、さらには少人数の「総合演習」を設けることを考えています。

一方、「テーマ別スタンダード科目群」は各学部・学科の共通科目群と専門領域の導入にもなる科目群とをすべての学生に提供するもので、本学の総合大学としてのメリットを生かし、学生の多様な向学心に応えるものとなるでしょう。

これらの全学共通教育に共通するスタンスは、各科目で行われる教育が決して受験勉強の延長のようなものではなく、いわゆる問題発見型の教育を志向しているということです。歴史を例にとれば、年号や人名を正確に覚えるようなものではなく、ある歴史上の事象・出来事に対して「なぜ」という疑問を抱き、考えることを前面に出したいと考えています。

なお、新しい全学共通教育には、1年を独立した2学期(4月～9月/10月～3月)(大学4年間で合計8学期)に分け、各学期ごとに履修科目が完結する「学期制」を全面的に導入するつもりです。これにより学生の留学やさまざまな社会活動などが行いやすくなるでしょう。

「全学共通教育」を支える教員としてのスタンス

このような新しい全学共通教育を実現するため、教員サイドの新しい体制づくりも進めていきます。

すべての専任教員が、所属学部・学科にかかわらず「青山学院大学の教員」として、全学の学生に対してその学識を伝えるという「全学出動(参加)体制」を確立し、全学共通教育を文字通り全学的な視野で円滑に運営していくための「全学共通教育機構」を設置します。この機構は、各学期において全学共通教育科目を担当している教員全員によって構成されます。したがって学期ごとにメンバーは替わります。この組織には専属の教員は置かず、各学部・学科に所属する教員が全学共通教育を担当するという「任務」と「権限」を持って、「出動(参加)」するというフレキシブルな組織形態を考えています。

「青山スタンダード」、そしてそれを支える「全学出動体制」と「全学共通教育機構」……。私たちは、これらの制度改革だけで、新しい全学共通教育が実現するとは思っていません。教員一人ひとりが、21世紀の青山学院大学を担っていくというプライドと責任感を持って教育にあたること……そういう「意識改革」が求められると思っています。

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

私立大学には、それぞれ伝統的に「強い」学問分野があり、その大学の図書館でなければ読むことのできない文献や資料があります。本学を含む都内の8私立大学は、多様化する利用者へのサービスに対応するため「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」を結成。相互の個性を生かした協力体制を築いています。



図書館長 石崎 晴己

(文学部フランス文学科教授)

教育・研究環境の急激な変化によって、図書館で扱う資料数の増加や多様化が進み、マルチメディア資料など新しいタイプの資料もますます増えてきました。こうした変化は、大学図書館の運営にも多大な影響を与えており、もはや一大学の図書館のみの努力では利用者へのさらなるサービス向上は困難です。各大学図書館がそれぞれに特色を発揮しながら、キャンパスを超えた協力関係を築いて互いを補い合う努力をしていく必要があります。

そこで、本学を含む山手線沿線の私立大学図書館が従来の枠を超えた関係を築いていくため、1998年12月より相互協力の検討作業に着手。2000年3月15日には8大学図書館長が一堂に会して協定を締結し、「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」がスタートしました。

加盟大学は、青山学院大学・学習院大学・國學院大學・東洋大学・法政大学・明治大学・明治学院大学・立教大学 の8大学。山手線沿線の比較的まとまった地域にキャンパスがあるこれらの大学図書館が、お互いに緊密な協力関係を築くことによって、学生・教員のさまざまなニーズに幅広く、そしてきめ細かく対応できる新たな「知

の宝庫」が、東京都心に誕生したといえるでしょう。

現在山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムが利用者へ提供している相互協力の具体的なプログラムは以下の通りです。

- ① Web検索による所蔵情報の提供と共有 (コンソーシアム加盟大学図書館の蔵書を同時に検索できる「検索ページ」を開設、公開しています)
- ② 利用証 (学生証等) による他大学図書館の入館利用
- ③ 資料の相互貸借の推進

新聞や雑誌など、バックナンバーのストック量が膨大になる定期刊行物を各大学で分担収集することはもう始まっていますが、今後は共同蔵書スペースなども検討課題となるでしょう。図書館スタッフの合同研修なども進められる予定です。図書館スタッフの能力向上とともに、お互いがお互いの個性を知り、理解を深めることで、各大学が特色あふれる図書館づくりを目指していきます。

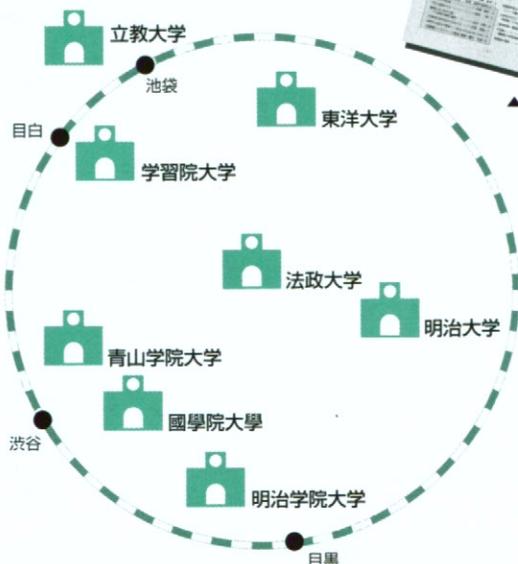
なお、2001年4月～12月に他大学から本学図書館を訪れた利用者数は合計1,274人。これは8大学中、明治大学に次ぐ2番目の数字で、渋谷という交通至便なロケーションが、他大学の学生・教員利用の促進に一役買っているようです。また同じ期間に本学から他の7大学の図書館を訪れた人数は965名。利用した学生からは概ね好評でした。現在、図書館報「AGULI」に各大学の図書館を訪問した学生のレポートを連載しています。今後、他大学の図書館の利用を考えている方には、一読をお勧めします。

青山学院大学図書館 ホームページ

<http://www.agulin.aoyama.ac.jp/>



▲AGULI



図書館名	住所・電話
青山学院大学図書館 (本館)	東京都渋谷区渋谷4-4-25 Tel 03-3400-3429
学習院大学図書館	東京都豊島区目白1-5-1 Tel 03-3986-0221 (内線2396)
國學院大學図書館 (渋谷)	東京都渋谷区東4-10-28 Tel 03-5466-0159
東洋大学図書館 (白山)	東京都文京区白山5-28-20 Tel 03-3945-7325
法政大学図書館 (市ヶ谷)	東京都千代田区富士見2-17-1 Tel 03-3264-9514
明治大学図書館 (中央/和泉/生田)	東京都千代田区神田駿河台1-1 Tel 03-3296-4249
明治学院大学図書館 (白金/横浜)	東京都港区白金台1-2-37 Tel 03-5421-5177
立教大学図書館 (本館)	東京都豊島区西池袋3-34-1 Tel 03-3985-2629

※利用時間等詳細はホームページをご覧ください。

国際シンポジウム「東アジアとフランス」

2001年12月18日(火)～22日(土)の5日間、青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室において、文学部フランス文学科主催による国際シンポジウム「東アジアとフランス～文化の世界システムの中で～」が開催されました。

シンポジウムの内容は、初日は3人の弁士による特別講演「東アジアの近代」、そしてフランス、中国、韓国、台湾、日本の第一線の研究者によるテーマ別の討議、最終日には総括討論「対話の地平へ」というものです。担当者の石崎晴己・文学部フランス文学科教授は、開催の意義を次のように語っています。

「ヨーロッパ文化のインパクトの中で進んだ東アジアの近代化。日本の近代文学の成立にフランス文学が果たした役割は一般によく知られていますが、では中国や韓国ではどうなのでしょう?今回のシンポジウムでは、各国の研究者が一堂に会することによって東アジアという広域における“フランス”の影響を考察することができました。また、討議の中で、フランスの若手研究者が出家遁世の伝統と文学的個の成立の共通性を論じたり、日本が唯一自力で近代化した多神教文化であることを指摘するなど、西洋からの示唆に富んだ意見も出され、



たいへん実りある催しになったと思います。今後も2年に一度ぐらいのペースで、開催していきたいと思っています」

ジャン＝ジャック・ベネックス監督講演会開催



青山キャンパス9号館910教室において2001年12月4日(火)、文学部フランス文学会主催で、「ディーバ」や「ベティ・ブルー」などの作品で世界的に著名な映画監督、ジャン＝ジャック・ベネックス氏をお

迎え「講演」をして頂きました。新作「青い目の女」のプロモーションのために来日されていたので、この機会を逃す手はないとお招きした次第です。500人近くを収容できる教室がほぼ満席になり会場は熱気に包まれていました。監督は、司会進行役の私の質問と会場からの質問に答える形で、ざっばらんに、しかも「熱く」学生たちに語りかけてくださいました。8年間の沈黙の間、絵を描いたり音楽活動を行ったりする一方で、ドキュメンタリー映画を撮り続け映画の原点に戻った、という話から切り出され、その後は会場からの数々の質問に、丁寧かつ情熱的にお答えにられました。いわゆる「ベネックス・ブルー」といわれる色やその他の色の使い方について、カメラ・ワーク、原作と脚本の関係、ご自分が影響を受けた映画についてや偏執狂的な主人公を登場させる理由、現代社会で映画を撮り続ける意義について等々、途切れることのない質問に誠実に対処してくださいました。学生たちの関心もきわめて高く、臆することなく手をあげる様子を見ていて、授業でも同じくらい積極的であればよいのになあ、と内心複雑な思いで、ある種の興奮に包まれた会場を眺めていた次第です。ところで、ベネックス監督と言えば「オタク」という映画でも知られています(日本ではまだ上演されていない)。ある特定の領域で事物を観察し収集して研究する自由人をオタクというならば、学生諸君もしばらく学問のオタクになられてはいかがか、と思った次第です。

(文学部フランス文学科助教授 平野隆文 記)

国際政治経済学部・経営学部共催シンポジウム「WTOの現状と今後の展望」



国際政治経済学部
飯田 敬輔 助教授

2001年12月8日(土)、青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室で、国際政治経済学部と経営学部の共催による「世界貿易機関(WTO)の現状と今後の展望」と題した国際シンポジウムが開催されました。

今や国際貿易、さらに国際関係にまで大きな影響を与えている「WTO」の存在。本学総合研究所では、昨年より

WTOに関する学際プロジェクトを手がけていますが、経済学、経営学、政治学、法学など、WTOを扱う領域、および関連分野もますます多岐にわたっています。今回のシンポジウムは、国内外の第一線の研究者を結集し、グローバル化が進む世界の中でWTOを今後どのようにとらえていくべきかを中心的なテーマにすえ、「WTOの最近の動向」「貿易と開発」「WTOとグローバルガバナンス」の3部構成で行われました。

本学からは、私以外に、岩田伸人・経営学部教授、深川由起子・経済学部助教授が参加。海外からは国際経済研究所(IIE)、イェ

ール大学、デューク大学、南カリフォルニア大学からの各研究者がゲストスピーカーとして招かれました。

当日は本学の教員、学生はもちろん、他大学の研究者、政府関係者、企業・業界団体関係者、マスコミなどでほぼ満員。パネルディスカッションでは、来場者からの活発な発言もあって大いに盛り上がり、好評のうちに閉会となりました。私はシンポジウムの実行委員会のメンバーとして、来場者の感想をうかがったのですが、「内容が充実していた」といった好意的なものがほとんどでした。今後も本学では、先端的なWTO研究を、より力を入れて継続して行っています。そのためにも若い研究者を育てなくてはなりません。今回のシンポジウムには、英語で議論ができる研究者を育てるという目的もあったのですが、これをきっかけに学部生や大学院生もWTOの問題に深い関心を抱いてくれたらこの上ない喜びです。



女子バドミントン部、2年連続学生王者の座に

本学女子バドミントン部は、2001年10月に行われた全日本学生バドミントン選手権大会(インカレ)団体戦において、日本体育大学を下し、見事、2年連続学生王者の座に輝きました。さらに個人戦でもダブルス優勝など好成績を残し、“女子バドミントンの青学”の名を全国にアピール。昨年は関東学生春季リーグ戦、東日本学生選手権でも優勝を決めており、合わせて三冠を達成したことになります。

インカレ団体戦優勝の原動力となったのが、個人戦ダブルスでの優勝も決めた田井美幸(文学部日本文学科4年)・脇坂郁(文学部日本文学科2年)ペア。ふたりはパワフルなスマッシュと速攻を武器に学生最強のペアとして君臨し、日本ランキングでも5位に入っています。

田井さんは石川県出身。小学3年生からバドミントンをはじめ、高



校生の時には国体出場や全国優勝を経験。一方、脇坂さんは福岡県出身。小学生の頃に家族と一緒に始めたというバドミントンに本気になったのは高校時代のことだとか。このふたりに学生王者となった「勝因」を聞いてみました。

「個人戦、団体戦とも『絶対に勝つ』という強い気持ちで試合に臨んだこと」(田井さん)「田井先輩の勝負に対する執念に引っ張られて、人一倍練習したこと」(脇坂さん)

なお、卒業する田井さんは、4月よりNTT東日本の実業団チームに所属します。学生最強ペアの活躍はもうありませんが、新しい戦力も加え3年連続学生王者を目指す女子バドミントン部の活躍に、2002年度も大いに期待されます。



左から田井さん、脇坂さん

連覇達成の空手道部・諸岡さん、世界を目指す

2001年7月に行われた全日本学生空手道選手権大会・女子形の部において、本学空手道部の諸岡奈央さん(経済学部経済学科2年)が優勝。昨年に続く連覇を成し遂げました。

「優勝できたのは、部の先生方や先輩方の日頃のご指導と仲間の励ましがあったおかげ。また、鳥取にいらっしゃるナショナルチーム



諸岡さん

のコーチの元で、1日12時間の猛練習に耐えた結果、自信を持って試合に臨むことができたからだと思います」

諸岡さんはアジア空手道選手権大会・女子団体形の部でも優勝し、12月に全日本空手道選手権大会にも出場。実業団などの強豪が一堂



に会する国内で最もハイレベルな大会において5位という成績を残しています。

「全日本選手権でも自分の持てる力はすべて出せたと思います。前回の7位より順位は上がりましたが、あと一步で決勝進出(ベスト4)を逃し、とても悔しい思いをしました。この悔しさをバネに、今後とも自己研鑽に励みます。今年は夏にメキシコで行われる世界学生選手権と、秋にスペインで行われる世界選手権大会の団体戦で優勝を目指したいです」

将来の夢は、世界チャンピオン。今年も諸岡さんの活躍から目が離せません。

レスリング部3名が全日本優勝に輝く

2001年、本学レスリング部の3名の選手が「全日本優勝」の栄誉に輝きました。

まず、全日本学生選手権大会(インカレ)フリー69キロ級に出場した長島正彦君(経済学部経済学科2年)が初優勝。

「オリンピックで金メダルを取ることが目標」という長島君は、「インカレ優勝はあくまでも通過点。この結果に満足せず“上”を狙いたい」と今回の勝利をクールに受け止めているようです。

また全日本大学グレコローマン選手権大会76キロ級では、大久保潤一君(文学部第二部教育学科4年)が、この大会で本学の選手として初めての優勝を果たしました。

「昨年のシーズンは最初から負けが続き苦しいシーズンでした。



左から津田君、大久保君、長島君

でも、学生時代最後の大会で優勝できて本当に良かった」

試合時とは異なり普段はとても優しい表情の大久保君は教師志望。「小学校の先生として、子どもにレスリングの楽しさを教えることが夢」と笑顔で語ってくれました。

そして、シーズンを通してグレコローマン97キロ級で安定した活躍を見せた津田弘二君(経営学部経営学科3年)は、全日本ジュニア選手権で昨年に続き連覇を果たし、全日本大学グレコローマン選手権大会では準優勝。

「戦うからには2位では満足できない。来年はぜひに学生王者になります」

2002年度は女子部員も加わるレスリング部。現在、選手たちの熱い戦いをバックアップするマネージャーを募集中です。



法学部への転学部制度導入について



法学部長・法学研究科長
山崎 敏彦 教授

法学部は2001年度から、他学部在先駆けて本学他学部からの2年次および3年次への転学部制度を導入することといたしました。大学はかねてより転学部の実施について前向きに取り組むという考え方で一致していましたが、法学部では制度の意義を積極的に認め実施に踏み切りました。

2001年12月中旬に初めて募集したところ、要項の希望者は80名ほど、実際の志願者も社会科学系学部生だけでなく文学部・理工学部生を含めて数十名あり、学生の強い関心と呼んだものと理解しています。

要項に記載された転学部の募集内容は、2年次へは募集定員約10名、3年次へは若干名です。出願資格は、本学の法学部以外に在籍する学生で、試験科目は、憲法、英語、面接。なお、出願した年次の修了時に所定の単位数を取得できなかった学生は試験に合格していても受け入れは不可とされます。

転学部の制度は、必ずしもはっきりした目的意識を持たずに入学した後、1年あるいは数年のさまざまな学びの中で法という分野を真剣に学習し、

社会に出ていきたいと考える学生に、退学・編入という大きな負担を課さずに、チャンスを与えるということを主眼に導入されたものです。また、法に関心を持ち、法学部に入って学び続けている学生にとっても、他の学問領域に素養を持ちつつ法分野を学びたいという意識を持った学生が入ってくることによって、大きな刺激が与えられることも期待され、法学部教育の活性化にもつながると考えています。これは将来の法科大学院において、法にとっての隣接領域を深く学んだ学生を迎え入れようとしていることとも結びつくことです。

この制度は、転学部後に法学部1年次の必修科目の履修が求められるため、特に3年次転学部生に4年間では卒業できない可能性があるというリスクを負わせる面があります。また、1・2年次の学習で容易には気づけない当該学問領域の面白さを見失わせてしまうことにならないかといった、より本質的な問題を抱えていることも否定できません。しかし、学生に対して、主体的な学びの姿勢を自らに問いかけ、どのように生きていったらよいか考えてみる機会を与えることになることは間違いないと思われまます。転学部制度が、こうした意味で、全学的に好ましく展開していくことを希望しています。この4月にはじめて迎え入れる転入学生がどのような学びの姿勢を見せてくれるか、法学部として大いに楽しみです。

青山学院大学 フェスティバル in さがみはら 開催報告

2001年11月10日(土)に相模原市立産業会館で行われた「第1回フェスティバル in さがみはら」に続き、12月16日(日)に小田急線・相模大野駅上の小田急ホテルセンチュリー相模大野で、「第2回フェスティバル in さがみはら」を開催。当日は、半田学長と相模原市来賓の挨拶、進学相談会、父母懇談会、校友会有資格者による無料法律・税務・登記・社会労務相談、学生アトラクション、校友である森村誠一氏によるトークショー「我が青春の青山」、軽食パーティーなどに約900人の市民が参加。駅前サンデッキを中心に行われた学生のブラスバンド・バトントワラーのパレードやパフォーマンス、ハンドベル演奏も多くの聴衆の関心を集め、大盛況のうちに閉幕することができました。



相模大野駅前メインストリートでのパレード



トークショーで語る校友の森村誠一氏
(本学文学部英米文学科卒業)

青山学院大学教育ローン

【特徴】

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 担保・保証人は不要です(学生本人が融資を受ける場合、銀行によっては保証人が必要になります)。
3. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
4. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院に振込まれます。
5. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

【利用資格】

本学学部生・院生の保護者または学生本人で銀行の定めた資格を有する必要があります。

【必要書類】

1. 資金使途確認資料……学費納付書等
2. 本人確認資料………印鑑証明書、住民票、運転免許証、健康保険証の写し等のいずれか一通
3. 所得確認資料………所得証明書、源泉徴収票等のいずれか一通

【注意事項】

1. 契約はすべて銀行と融資を受ける者が行います。
2. 融資は学費(授業料他)等の教育資金に限ります。
3. 銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に照会してください。
4. 年間学費相当分の借入れを希望する場合は、前期分学費納付用紙・後期分学費納付用紙が必要です。この場合は、学部生は所属キャンパス学生課、院生は大学院事務室(理工学研究科生は世田谷キャンパス学生課)へ申し出てください。必要な学費振込用紙を発送いたします。

【提携銀行】

三井住友銀行	渋谷支店お客様2課	TEL 03-3463-0102
※第一勧業銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3462-0315
※富士銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3400-5151
あさひ銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3498-3211
UFJ銀行	青山支店ローン担当係	TEL 03-3409-3211
横浜銀行	渋谷支店ローン担当係	TEL 03-3463-2151

(融資の申し込みは上記銀行の全支店で受け付けますが、学生本人が融資を受ける場合はUFJ銀行のみ青山支店に限ります。)

※印は、2002年4月1日に合併し、みずほ銀行になります。

2002年度新役職員紹介

新学部長紹介



文学部長
石崎 晴己

武藤元昭教授は2002年3月末日をもって任期を満了し、後任には同学部石崎晴己教授が選任された。任期は2002年4月1日より2年間。石崎晴己教授は1940年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科仏文専修博士課程満期退学。立正女子大学(現・文教大学)教育学部助教授を経て、1976年4月に本学文学部に就任。1985年4月より教授となる。文学部フランス文学科主任、大学院文学研究科フランス文学・語学専攻主任、図書館長等を歴任。J.=P.サルトルを中心とする二十世紀フランス文学・思想を専門とし、日本フランス語フランス文学会、日仏哲学会、日本フランス語教育学会(会長)に所属。



国際政治経済学部長
袴田 茂樹

高森寛教授は2002年3月末日をもって任期を満了し、後任には同学部袴田茂樹教授が選任された。任期は2002年4月1日より2年間。袴田茂樹教授は1944年生まれ。東京大学大学院社会学研究科国際関係論博士課程単位取得のため退学。芦屋大学教授を経て、1982年4月に本学国際政治経済学部就任。1987年4月より教授となる。国際政治経済学部国際政治学専攻主任、大学院国際政治経済学研究科国際政治学専攻主任、プリンストン大学客員研究員、東京大学大学院客員教授等を歴任。現代ロシア研究を専門とし、ロシア東欧学会(旧ソ連東欧学会)、日本国際政治学会に所属。



理工学部長
魚住 清彦

井出英人教授は2002年3月末日をもって任期を満了し、後任には同学部魚住清彦教授が選任された。任期は2002年4月1日より2年間。大学院理工学研究科長を兼務。魚住清彦教授は1942年生まれ。工学博士。東京大学大学院工学系研究科応用物理専門課程博士課程単位取得後退学。東京大学工学部講師を経て、1979年4月に本学理工学部就任。1988年4月より教授となる。理工学部物理学専攻主任、大学院理工学研究科物理学専攻主任、情報科学研究センター副所長(世田谷キャンパス)等を歴任。薄膜・表面・超音波物性を専門とし、応用物理学会、日本物理学会、日本真空協会、日本材料科学会に所属。

学務・学生担当副学長 西澤 宗英

西澤宗英教授は2001年12月18日をもって任期を満了し、引続き同氏が副学長に再任された。任期は2001年12月19日より2年間。

総務・広報担当副学長 辻 正重

辻正重教授は2001年12月18日をもって任期を満了し、引続き同氏が副学長に再任された。任期は2001年12月19日より2年間。

第二部担当学長補佐 林 伸二

林伸二教授は2001年12月18日をもって任期を満了し、引続き同氏が第二部担当学長補佐に再任された。任期は2001年12月19日より2年間。

法学部長 山崎 敏彦

山崎敏彦教授は2002年3月末日をもって任期を満了し、引続き同氏が法学部長に再任された。任期は2002年4月1日より2年間。

情報科学研究センター所長 隆 雅久

隆雅久教授は2001年12月18日をもって任期を満了し、引続き同氏が情報科学研究センター所長に再任された。任期は2001年12月19日より2003年3月31日まで。

保健管理センター所長 五味 慎太郎

五味慎太郎教授は2001年11月30日をもって任期を満了し、引続き同氏が保健管理センター所長に再任された。任期は2001年12月1日より2年間。

2002年度 首都圏父母懇談会

父母懇談会は、大学後援会事業の一環として、大学の近況をご父母の皆様にお知らせするとともにご子女の大学生活等についてのご相談等をうかがい、それを大学運営に反映させることを目的に実施しております。

首都圏在住の新3年生のご父母を対象とした父母懇談会の日程は、右表のとおりです。対象の方には4月下旬以降にご案内を通知いたします。また、地区父母懇談会の日程は次号でお知らせします。

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいのご父母を対象

対象学部・学年	開催日
法学部・3年	5/25(土)
国際政治経済学部・3年	6/1(土)
経営学部/経営学部第二部・3年	6/15(土)
経済学部/経済学部第二部・3年	6/22(土)
文学部/文学部第二部・3年	6/29(土)
理工学部・3年	10/12(土)



青山学院校友センター

窓口案内

「青山学院校友センター」は青山学院の卒業生に関する業務を行っており、青山学院と卒業生のみなさんを結び窓口の役割をしています。また、青山学院の卒業生全員が会員となる「社団法人青山学院校友会」の本部事務も担当しています。

卒業生相互の親睦に関わる業務として同窓会、全国各地の地方支部および海外支部、各種OB会、クラス会等の紹介取次を行っています。また、全ての卒業生に情報誌(AOGAKU Chimes)を送付して学院の近況、卒業生の活躍などをお伝えしています。

その他の主な業務としては青山学院維持協力会の入会申込、青山カードの申込受付、校友会各支部連絡先紹介、校友会集会所利用の申込受付、卒業生の情報収集等です。

以上の活動には卒業生の基本情報が不可欠です。住所の管理には細心の注意を払っておりますので、住所や氏名の変更などがありましたら必ず下記青山学院校友センターまでご連絡ください。



「AOGAKU Chimes」(あおがくチャイムズ)のご案内

青山学院卒業生全員を対象に情報誌「AOGAKU Chimes」を発行しています。青山学院と卒業生の方々の絆を強める活動の一環として、青山学院の情報を全卒業生に等しく伝えることと積極的な情報の発信を目的としています。現在は年1回の刊行予定で将来は発行頻度を増やすことも検討しています。

最新号(2001年12月に発行)には青山学院に関係する音楽、青山学院の校地・校舎の紹介、活躍している卒業生や現役教師へのインタビュー、校友会関係の活動の案内、学校界隈の情報等を掲載しています。

発行は青山学院校友センター、青山学院広報室、青山学院校友会の共同で進めています。今後、より充実させていくためにも卒業生のみなさんの幅広いご意見を是非お寄せください。



創刊号(左)、第2号(右)

※青山学院校友センターは「アイビーホール青学会館2階」にありますのでどうぞご利用ください。

保存版



卒業後の連絡先一覧

	担当事務局	お問い合わせ先	備考
青山学院へのアクセス		03-3409-8111 (大代表) http://www.aoyama.ac.jp	8:00~20:00 (平日)、 土曜は16:00まで。
卒業・成績証明書の受付	学務部教務課(第二部を含む) 理工学部事務部教務課(理工学研究科を含む) 大学院事務室(人文・社会科学系大学院)	03-3409-8168(直通) 03-3309-6633(直通) 03-3409-7831(ダイヤルイン)	在学時氏名での発行となります。
科目等履修生案内	学務部教務課(第二部を含む) 理工学部事務部教務課 学務部教職課程課 大学院事務室	03-3409-8168(直通) 03-3309-6633(直通) 03-3409-9634(ダイヤルイン) 03-3409-7831(ダイヤルイン)	人文・社会科学系学部対象 理工学部・理工学研究科対象 教職課程対象 人文・社会科学系大学院対象
基礎資格および単位修得証明書の受付	学務部教職課程課	03-3409-9634(ダイヤルイン)	免許状授与証明書は、教育庁へお問い合わせください。
公開講座案内	庶務部長事務室(公開講座担当)	03-3409-8111(内線12273)	4月上旬より「2002公開講座 GUIDE BOOK」を配布予定です。
図書館の利用	図書部運用課閲覧係	03-3409-7858(ダイヤルイン) http://www.agulin.aoyama.ac.jp	卒業生の図書資料の貸出には、 利用カードの申請が必要となります。
大学院案内	大学院事務室 理工学部事務部教務課	03-3409-7831(ダイヤルイン) 03-3309-6633(直通)	人文・社会科学系大学院対象 理工学研究科対象
キリスト教に関する相談(教会紹介など)	宗教センター(間島記念館1F)	03-3409-6537(ダイヤルイン)	E-mail agcac@cc.aoyama.ac.jp
住所・氏名変更連絡先 「青山学報」定期購読の受付 「青山学院カード」の申込受付 「青山学院維持協力会」の入会受付 校友会支部連絡先紹介 校友会集会所利用の申込受付 校友会総会への出席受付	青山学院校友センター ※青山学院校友会本部事務局を兼ねています (アイビーホール青学会館2F)	03-3409-6645(ダイヤルイン) 03-3409-9773(ダイヤルイン) FAX 03-5485-3616	卒業生の消息がおわかりになる方はお知らせください。 E-mail alumni@jm.aoyama.ac.jp
学院の歴史資料展示	資料センター(間島記念館2F)	03-3409-6742(ダイヤルイン) FAX 03-3409-8134	青山学院史料展示を一般公開しています。
寄付の申込受付	総務部庶務課(法人本部1F)	03-3409-6463(ダイヤルイン)	
大学同窓祭	大学同窓祭実行委員会事務局 (ウェスレーホール3F)	TEL・FAX共通 03-3409-8990(直通)※月・水・金のみ	今年も9月23日(月)祝日に開催する予定です。実行委員としてお手伝いして下さる仲間を募集中です。
青山会ネットワークへの加入 (業種別「青山会」問い合わせ)	青山会ネットワーク事務局 (アイビーホール青学会館内/担当:若月)	03-3409-8181(代表) http://www.ki.rim.or.jp/aokainet	「青山学院の発展に寄与」、「会員相互の交流」を目的として設立された企業人の会。業種別「青山会」の組織づくりを推進し、異業種間交流を図っています。
婚礼・会合施設	ブライダルサロン (アイビーホール青学会館内)	03-3409-8181(代表) http://www.aogaku-kaikan.co.jp	懇親会・同窓会・クラス会・OB会・ア・グ・ル・ゼミでの会合などにご利用ください。校友には、割引特典があります。

●AGUニュースは、本学ホームページでご覧になれます。☞ <http://www.aoyama.ac.jp/agunews>

News Index

2001.12~2002.2

WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

青山学院大学では学内のタイムリーな情報を本学ホームページ上の「WEEKLY AOYAMA」にて週ごとに紹介しています。2001年12月より、「WEEKLY AOYAMA」に掲載されたニュースのタイトルの以下の通りです。各ニュースの詳細は「AGU NEWS on Web」をご覧ください。☎ <http://www.aoyama.ac.jp/agunews>

01年12月

- 本学経営学部主催による公開シンポジウムのお知らせ
- 本学経済学部・経済学会講演会のお知らせ
- 本学文学部フランス文学科主催による国際シンポジウムのお知らせ
- 「第26回オール青山メソシア」公演のお知らせ
- 本学国際政治経済学部・経営学部共催による国際シンポジウム「WTOの現状と今後の展望」開催
- 「e-Learning Forum 2001 Winter」開催
- 本学文学部教育学科・教育学会講演会開催



- 「おーる あおやま あーと てん 2001」を開催
- 2002年度一般入学試験願書受付について
- 「青山学院大学フェスティバル in さがみはら」開催のお知らせ
- NHKラジオ第2の文化講演会で本学公開講座



- 本学聖歌隊「クリスマス・チャペル・コンサート」のお知らせ
- 「第36回オルガン演奏会」のお知らせ
- クリスマス礼拝のお知らせ
- 本学軟式野球部「第22回東日本大学軟式野球選手権大会」で準優勝
- 本学法学部伊藤佑介君、けん玉連続の世界記録を更新
- 本学経済学部・経済学会講演会のお知らせ
- 本学グリーンハーモニー合唱団「第47回定期演奏会」のお知らせ
- 本学ハンドベルクワイア「第18回チャリティー・クリスマス・チャペル・コンサート」のお知らせ
- ランチタイム・コンサートのお知らせ

02年1月

- 2002年度一般入学試験願書受付中

- 学務・学生担当副学長に西澤宗英教授(法学部)が再任
- 総務・広報担当副学長に辻 正重教授(理工学部経営システム工学科)が再任
- 第二部担当学長補佐に林 伸二教授(経営学部)が再任
- 情報科学研究センター所長に隆雅久教授(理工学部機械創造工学科)が再任
- 保健管理センター所長に五味慎太郎教授(経営学部)が再任



- 「第二部スプリング・カレッジ」のお知らせ
- 「学部科目等履修生募集要項」の販売について
- 本学文学部教育学科笹森 健教授による最終講義のお知らせ
- 本学理工学部電気電子工学科橋本 修教授が携帯電話の発する電磁波の頭部吸収量を低減し、感度を高める設計法を開発
- 本学理工学部物理学科秋光 純教授が2001年度朝日賞を受賞

- 米サイエンス誌の科学分野トップ10に本学理工学部物理学科秋光純教授
- 本学理工学部化学科重里有三教授、企業との共同研究で酸化チタン薄膜を開発
- 青山学院大学プロジェクト95が第7回「平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞」を受賞
- 2001年度青山学院学術褒賞受賞者が決定
- 2001年度難関試験等合格者について

02年2月

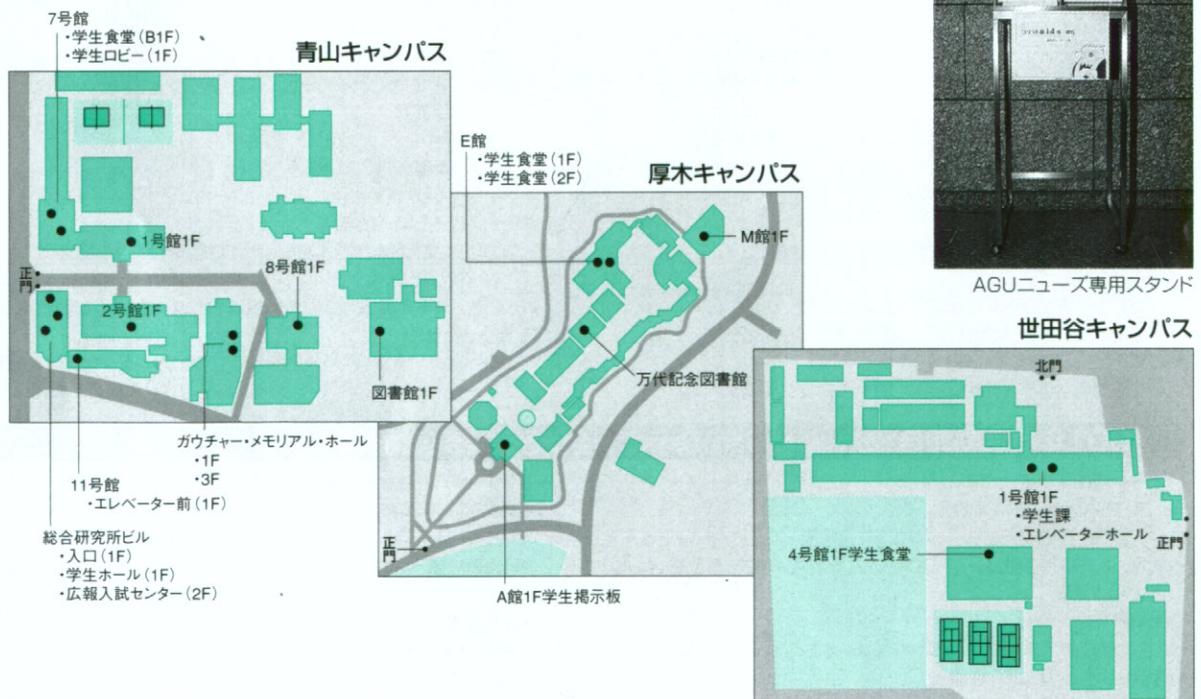
- 本学法学部 山村忠平名誉教授が逝去
- 2002年度一般入学試験出願について
- 本学ホームページに相模原キャンパスのWEBサイトがオープン
- 本学半田正夫学長に日本レコード協会から特別功労賞



AGUニュース専用スタンド

設置個所案内図

AGUニュースやAGUニュースレターの配布用スタンドを各キャンパスの以下の場所に設置しています。どうぞご利用ください。



2002年度公開講座 (※2002年5月～6月開催分を掲載しています。)

教育・研究の成果を広く社会に開放し、生涯教育や地域文化の向上をバックアップすることを目的とした公開講座。大学としての社会的貢献を果たしていくため、1990年以来多彩な講座を開講しています。

2002年度の本学主催の講座については青山キャンパス、世田谷キャンパス、厚木キャンパスの他、本学キャンパス以外での公開講演会(相模原市、他)を予定しています。また、渋谷区との共催による講座も青山キャンパスで開講しています。テーマはいずれも今日関心をもたれている

諸問題について取り上げています。

各講座の内容・申込方法等詳細を掲載した「2002公開講座 GUIDE BOOK」は4月初旬に完成予定です。

ご希望の方は下記までお問い合わせください。

問い合わせ先 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
 青山学院大学庶務部学長事務室(公開講座担当)
 Tel 03-3409-8111(内線12273)

青山学院大学<世田谷キャンパス開講 15:00～16:30>			
子ども心の教育	5/11(土)	子どもの心の発達	針生 悦子(文学部助教授)
	5/18(土)	乳幼児の発達を何が支えるか	庄司 順一(文学部教授)
	5/25(土)	幼児の心の教育	佐伯 胖(文学部教授)
	6/1(土)	子どもの成長と「教育家族」—学校と家族—	北本 正章(文学部教授)
	6/8(土)	思春期・青年期の不適応と心の教育	小俣 和義(文学部専任講師)
青山学院大学<厚木キャンパス開講 10:30～12:00>			
ポスターレス時代の犯罪	5/11(土)	少年法の諸問題	酒井 安行(法学部教授)
	5/18(土)	インターネット犯罪について	LENZ, K.F.(法学部教授)
	5/25(土)	犯罪の国際化とグローバル化	新倉 修(法学部教授)
	6/1(土)	犯罪者処遇	有田 千枝(元法務省矯正研修所教官)
	6/8(土)	犯罪・非行の原因と、犯罪者・非行少年の社会復帰について考える	石井 光(法学部教授)
青山学院大学・渋谷区共催(前期)<青山キャンパス開講 15:00～16:30>			
変貌するアジア世界	5/11(土)	21世紀アジアの政治動向をどうみるか —中国、台湾、朝鮮半島を中心に—	天兒 慧 (国際政治経済学部教授)
	5/18(土)	中国のWTO加盟と東アジア経済の行方	深川 由起子(経済学部助教授)
	5/25(土)	国際関係におけるイスラーム世界—中東地域を中心にして—	伊能 武次(和洋女子大学人文学部教授)
	6/1(土)	華僑・華人の歴史と現在	井出 静(国際政治経済学部教授)
	6/8(土)	南アジア(インド)の経済自由化	大野 昭彦(国際政治経済学部教授)

Club & Circle Information

2002年度主要活動予定(2002年4月～5月) *主な体育連合会・文化連合会の活動予定

アイスホッケー部

◎第51回関東大学選手権大会(4月～5月) 於:東伏見アイスアリーナ 他

空手道部

◎関東学生空手道選手権大会(5月)

剣道部

◎関東学生剣道選手権大会(5月) 於:日本武道館
 ◎関東女子学生剣道選手権大会(5月) 於:東京武道館

硬式野球部

◎東都大学野球春季リーグ戦(4/28～) 於:神宮球場

サッカー部

◎関東大学サッカー春季リーグ戦(4月～5月)

柔道部

◎東京学生柔道優勝大会(5月) 於:日本武道館

ソフトテニス部

◎東都大学春季リーグ戦(5月) 於:中央大学
 ◎関東学生春季リーグ戦(5月) 於:千葉県白子町

卓球部

◎春季関東学生リーグ戦(5月) 於:代々木第二体育館

バドミントン部

◎関東学生春季リーグ戦(4月～5月) 於:日体大健志台体育館

バレーボール部

◎春季関東大学リーグ戦(4月～5月)

レスリング部

◎全日本JOC選手権大会(4月)
 ◎東日本学生リーグ戦大会(5月)

アナウンス研究会

◎発表会(5月) 於:青山学院大学内

オーケストラ部

◎第80回定期演奏会(5/26) 於:昭和女子大学人見記念講堂

グリーンハーモニー合唱団

◎東京六大学混声合唱連盟第44回定期演奏会(5/26)
 於:東京文化会館

※上記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

問い合わせ先

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 青山学院大学学生部学生課
 Tel 03-3409-8111(内線12163、12164)

2001年度活動報告(2001年12月～2002年1月) *主な文化連合会の活動内容報告

◎オール青山メサイア公演

12/22(土) 於:青学講堂
 オーケストラ部、オラトリオ・ソサエティ合唱団、グリーン・ハーモニー合唱団、第二部合唱部コール・フロッシュ、聖歌隊、第二部聖歌隊、女子短期大学聖歌隊

◎演劇研究会 公演

12/29(土)・30(日) 於:中野スタジオあくとれ

◎オラトリオ・ソサエティ合唱団

KAY合唱団第104回定期演奏会
 12/10(月) 於:東京芸術劇場

◎グリーンハーモニー合唱団

第47回定期演奏会
 12/5(水) 於:昭和女子大学 人見記念講堂

◎写真研究部 写真展

12/13(木)～19(水) 於:大学7号館ロビー

◎放送研究部(A.B.S.)

第46回A.B.S.サウンド見本市
 12/15(土) 於:大学1244教室

◎リズムマンドリーノ

第40回定期演奏会 12/8(土) 於:青学講堂

福祉とロボット

井出 英人
理工学部長
電気電子工学科教授



1944年長野県佐久市生まれ。
1969年工学院大学大学院修了。
現在青山学院大学理工学部
電気電子工学科教授。1996年
より理工学部長。1986年カリ
フォルニア大学脳研究所留学。
工学博士。専門は生体情報工
学、福祉工学。主な社会活動は、
総務省通信総合研究所評価
委員、経済産業省省エネ大賞
審査副委員長。

人生85歳、高齢化社会の現在、老後の面倒を誰がみるかということが問題となっています。一方で、家族に看取られ、しかも自宅で亡くなるということが、その人にとって本当の天寿を全うした事になると思います。それこそ「人生、生きて良かった」という事ではないでしょうか。ところが今、日本の平均出生数は、2001年で1.36人まで下がっていますので、高齢化の進展に伴う現役世代への負担の増加が懸念されています。そこで考えられるのがロボットです。介護ロボット、家事代行ロボットをはじめ、孫や恋人に似た優しいロボットを開発して、皆さんと共に素晴らしい人生をおくれるようにしたいと考え、我々は日々努力しています。

ロボットはただ単に作ればよいというものではなくて、いわゆる「ロボット三原則」というものがあります。①人間には必ず服従しなければいけない。②人間に危害を与えてはいけない。③感情を持ってはいけない。これがロボットを作るための3つの条件です。つまり、非常に礼儀正しく、言われたとおりに実行する優しい機械でなくてはなりません。

例えば「鉄腕アトム」などのマンガを見た方は、ああこんなロボットができればいいなど思われたのではないのでしょうか。それから30年も40年も経っているのに、実際には少しも進歩していないじゃないかと思われるでしょう。しかしながら、人間の歩行動作ひとつとっても、それをロボットで再現するのは非常に難しいことなのです。人間の動作を細かく観察すると、揺れながら歩行しています。しかし、単に揺れるという動作では、ロボットはすぐに倒れてしまいます。

私は日頃から学生に、何かに行きついたら生体に戻れと言っています。生体だったらそのときにどんな仕草をするかを考えさせます。生体の動作で最も良い例は、赤ちゃんの動きです。赤ちゃんに積木遊びをさせる場面を考えましょう。まずロボットを作る場合に、我々はど

うしても大人の手を見て大人の手で作ってしまいます。しかし、赤ちゃんならば三角の積み木を握るときにどの様に握るか、あるいは、四角の積み木を握るときにどうするか。色の選択でも赤ちゃんの場合には赤色や黄色の中で、最初に取り色はどれかなど考えます。ですから学生には「もう一度人間に戻れ!赤ん坊を見ろ!公園にでも行って子どもたちの遊ぶ仕草を見て来い!」そのように教えています。

さてロボットを作る場合に、最初に手を作れと言われても、5本の指を作るのはなかなか難しいものです。ところで2本の指だったらどうやって握るか、丸いものだったらどの様に握るか、細長い物だったらどういう風に握るか、という手の動きをスローモーションビデオで見ると、物を握るときには人差し指が最初にかかって、その次に親指がかかるという仕草をする。物を置くときも、壊れにくい物を置くときはパアッと置くようですが、例えば卵のような物を置く場合にはどうするかという、どうしても親指を最後に放すような仕草をする。ですから、いきなりこれをガタッと置くようなロボットでは、だいたい物を壊してしまいます。

みなさんがこれからボランティアなどで活躍なさる場合、知っているの良いと思いますが、目の動きというのは口ほどにものを言う、というのは本当にそうだと思います。眼球が右から左に動く、あるいは上下に動くと、その時に眼電位が現れます。それがどういうところに应用できるかという、例えば寝たきりの老人あるいは小さい子どもを診るとき、画面上に“あいうえお”あるいは“アルファベット”や“数字”を書いておきます。手が動かない、また発話もできない病人でも、目は見えていますから、目の電位を計測して、視線がどの文字に向けられているかということがわかります。これは「あ」を指しているな、これは「り」を指しているな、これが「が」を指しているな、「ありがとう」という文字が一

点一点、読めるような、そのように判断できるわけです。

次にセンサーということを考えてみます。人間には例えば五感があります。脳を今コンピュータに例えますと、嗅覚とか味覚とか聴覚、いろいろなセンサーを内臓していることになります。ですからロボットをつくる場合、ただロボットを動かせばいいのでなく、それに合ったセンサーを使わなければいけません。

ロボットを作ったときに、例えばこれは国立身体障害者リハビリテーションセンターで、お医者さんが相当な数の患者さんにアンケート調査を試みた結果、やはり同じことを言っていますが、病人はロボットで対応されるという事を非常に苦痛と考え、やはり人間が対応して欲しいと回答しています。例えばみなさんは、今はお元気なのでロボットに世話をされてもよいと思っけていても、いざ病人になったときにロボットがいろいろなことをやってくれるようになれば、これは本当に夢を与えてくれる話だと思っでしょう。しかし、実際にはそれが患者さんにとっては非常に苦痛なのです。「私たちは温かさが欲しい」ということを常々言われます。

まだロボットに介護をしてもらうまでには、はるかに長い道のりですが、一步一步近づいてきています。どこのご家庭でも病人を入院させると、家族は非常に疲れるものです。また、病人ができるだけ早く家に帰りたいと思うのももったいな事です。病院があるけれども、在宅で面倒をみたいという時に、ボランティアが非常に大事であって、そこにさまざまなロボットを組み込む形が理想といえるでしょう。先ほど述べましたが、患者さんにアンケート調査をとると、やはり温かみのある人間の手で介護をもらいたいというのが本音です。なんとか早く自分の家で病人が無理なく生活できるような環境づくり、私たちの研究分野の者が役立ちたいと願い、研究を重ねている次第です。

オープンキャンパス 相模原新キャンパス説明会

※開催内容など詳細については、ホームページ等でご紹介いたします。

オープンキャンパス

青山キャンパス

(人文・社会科学系学部対象) 7/20(土・祝) 10:00~17:00
(全学部対象) 9/14(土) 10:00~17:00

世田谷キャンパス

(理工学部対象) 7/20(土・祝) 10:00~17:00

社会人のためのオープンキャンパス

青山キャンパス

7/6(土) 14:00~17:30

相模原新キャンパス説明会

11/10(日) 青山キャンパス

2003年4月に開学する相模原キャンパスについて、受験生とそ
のご父母を対象に、説明会を行います。

相模原キャンパスホームページが完成



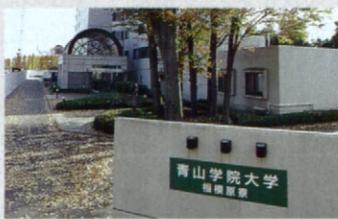
2003年4月に開学する相模原キャンパスを紹介するホームページが完成いたしました。ホームページの中にはキャンパス概要、Movieによるキャンパス紹介等の情報を掲載。今後、建設の進行に合わせて情報を更新し、最新情報をお伝えしていきます。

<http://www.aoyama.ac.jp/sagamihara>



スクーンメーカー寮の移転について

相模原キャンパスの開学に伴い、世田谷キャンパスに隣接する学生寮「スクーンメーカー寮」が、2003年4月相模原キャンパスに移転することになりました。



相模原キャンパス告知用看板について

2003年4月に開学する相模原キャンパスの告知用看板をリニューアルしました。新キャンパス敷地内に設置された同看板は、JR横浜線(古淵~淵野辺間)の車窓より眺めることができます。



2002年度 一般入学試験出願結果

2002年度一般入学試験は、昼間部・第二部すべての出願が終了しました。出願者数は、昼間部38,937名、第二部2,095名、合計41,032名(昨年度37,798名)となり、18歳人口が年々減少しているなか、2年連続の出願者増となりました。なかでも昼間部では、昨年度より3,298名の大幅増となりました。



青山学院大学
入学試験会場



2002年度一般入学試験の出願者数の詳細については、大学ホームページ(入試情報)にて公開しています。

第二部スプリング・カレッジ



第二部学生を対象にして行われる「第二部スプリング・カレッジ」は、2002年2月9日(土)、10日(日)の両日、厚木セミナーハウスおよび厚木キャンパス宗教センターにおいて本学を卒業された太田春夫牧師(新生釜石教会)を特別講師にお迎えして「地の塩一出会いを生きる」という主題で開催されました。太田牧師からは「素晴らしい人との出会いこそ、私たちが生きていく上で最も重要なことのひとつであり、その小さな出会いを大切にすることが豊かな可能性を拓いてくれる」というメッセージが与えられました。16名の学生が参加した小さな集いではありましたが、充実した学びと交わりの時を持ちました。

シリーズ大学探訪

万代順四郎

1907(明治40)年青山学院高等科を卒業、在学中にキリスト教徒となりました。三井銀行に入行、1937(昭和12)年同行取締役会長に就任。1953(昭和28)年ソニー株式会社創立期の取締役会長を務め、同社の飛躍的な発展に寄与しました。母校青山学院においても力を尽くし、理事長・校友会会長などを歴任、1952(昭和27)年以降は、財務理事として青山学院の復興・諸施設の充実、経営の改善・合理化など健全財政の礎を築きました。また、奨学金制度の必要性を痛感し、巨額の私財を学院に寄付されました。これを基金として発足したのが「青山学院万代奨学金」です。



万代氏寄贈による横江嘉純作「愛の像」(厚木記念館1階ホール)

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュース

を簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニュース」を確実に保証人宛にお届けするため、住所が変更になった場合は、次の窓口で住所変更手続きをお取りください。

青山キャンパス(昼間部)→学生部厚生課
世田谷、厚木、青山キャンパス(第二部)
→各キャンパス学生課

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

AGU News on Web
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>